

科学技術連携施策群「新興・再興感染症」フォローアップ概要

目標：新興・再興感染症に迅速に対応できる研究体制を構築し、国民の安心・安全に貢献する。

活動：各府省において実施している新興・再興感染症に関する研究課題の重複について検討し、不必要な重複がないことを確認したほか、補完的に実施すべき研究開発課題として、「野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析」および「BSL-4施設を必要とする新興感染症対策」を選定した。また、府省間の連携を強化して効率的な研究遂行を推進した。さらに、新興・再興感染症に関するシンポジウムを開催した。

成果と研究目標の進捗状況：本連携施策群の対象施策のうち、文部科学省が実施している「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」を活用して、厚生労働省・農林水産省所管の研究機関が共同研究・共同利用を実施するなど府省連携が進められている。補完的課題「野鳥ウイルスの生態解明とゲノム解析」においては、渡り鳥の移動経路の追跡や、野鳥のウイルス保有状況調査などを通じて、高病原性鳥インフルエンザウイルスやウエストナイルウイルスが野生鳥類の移動を介して我が国に侵入する可能性があることを明らかにした。また、補完的課題「BSL-4施設を必要とする新興感染症対策」において、人材を育成し、BSL-4施設の必要性や求められる設備などを明らかにしたほか、リスクコミュニケーションの方策を明らかにした。

以上のように、新興・再興感染症研究のための府省連携が強化され、新たなBSL-4施設に関する検討やBSL-4施設を必要とする重篤な感染症に関する研究人材の育成が進むなど、新興・再興感染症に迅速に対応できる研究体制の構築は着実に進んでいる。

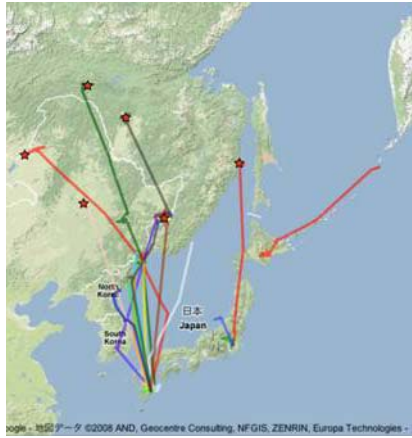
主な具体的成果の事例：

(府省間等の連携活動や補完的課題 (3年間) の実施により、特に進展のあった事項、成果)

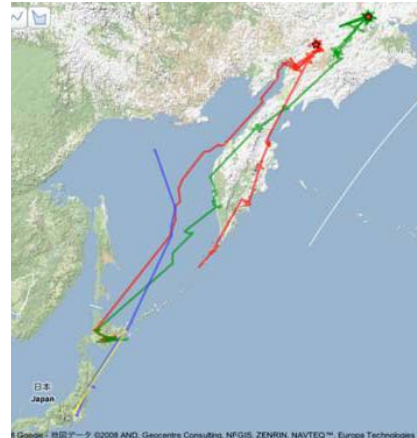
[野鳥由来ウイルスの生態解明とゲノム解析]

(補完的課題H17~H19)

高病原性鳥インフルエンザウイルスやウエストナイルウイルスが野生鳥類の飛来を介して我が国に侵入する可能性があることを明らかにした。



衛星追跡によるマガモの移動経路



衛星追跡によるオナガガモの移動経路

[BSL-4施設を必要とする新興感染症対策]

(補完的課題H18~H20)

レベル4病原体の基盤研究と人材育成を進め、新たなBSL-4施設に関する検討を行った。また、感染症研究及びBSL-4施設についての理解を深めるリスクコミュニケーションの方策を明らかにした。

諸外国のBSL-4施設の概要

	カナダ	スウェーデン	フランス	英国
施設名	国立微生物研究所	国立感染症対策研究所	国立健康医学研究所	健康保護機関
所在地 (最寄りの市)	ウィニペグ	ストックホルム	リヨン	ロンドン
市中心部からの 所用時間(車)	15分	30分	20分	30分
立地場所の 地域区分	市街地域	文教地域	文教及び市街地域	文教及び市街地域
施設周辺の一般 住居の存在	施設に隣接して確認	施設周囲には確認 せず	集合住宅をやや離れ て確認	施設に隣接して確認
住民からの要望 等	あり	なし	あり	なし
要望解決の場	住民と施設で 合同委員会を設置	なし	住民と施設で 合同委員会を設置	なし
施設稼働時期 ラボ形態	2000年 スーツラボ	2002年 スーツラボ	2000年 スーツラボ	1974年(1984年改良) グローブボックス

今後の課題： 高病原性鳥インフルエンザウイルスやウエストナイルウイルスなどの我が国への侵入に備えるため、野鳥を中心としたサーベイランスを継続的に行う必要がある。また、我が国においても、重度感染症制圧のための新たなBSL-4施設を用いた基盤研究が推進されるべきであり、感染症研究及びBSL-4施設について国民の理解を深めるためにリスクコミュニケーション活動を推進する必要がある。引き続き、本連携施策群終了後、新たなBSL-4施設に関するリスクコミュニケーションについては、検討する必要がある。